

## The High Priest 大祭司

「大祭司の衣服は、その高い地位にふさわしく、高価な材料で美しく作られていた。一般の祭司の着る亜麻の衣服に加えて、彼は同じく1つ織りの青衣を着用した。そのすそには、金の鈴と、青糸、紫糸、緋糸で作ったざくろの装飾がほどこしてあった。その上に金糸、青糸、紫糸、緋糸、白糸で織った短衣エポデを着用した。これは美しく作られた同色の帯でゆわえつけられていた。エポデにはそでがなく、金ししゅうの肩当てには、イスラエル12の部族の名をしるした2個のしまめのうがはめ込まれていた。

エポデの上には、祭司服の中で最も神聖な胸当があった。これは、エポデと同じ材料でできていた。形は一指当たり平方の正方形で、金の環に結びつけられた青ひもで肩からつるされていた。

周囲は神の都の12の土台を形成するのと同じ、さまざまな宝石で縁取られていた。縁の内側には金にはめ込まれた12の宝石が4列に配され、これには肩当てと同じく12部族の名が彫られていた。主は、『アロンが聖所にはいる時は、さばきの胸当にあるイスラエルの子たちの名をその胸に置き、主の前に常に覚えとしなければならない』と命じられた(同・28:29)。そのように、罪人のために父の前で、ご自分の血による嘆願をなさる偉大なる大祭司キリストも、ご自分の心に、すべて悔い改めた信じる魂の名をしるしておられる。『わたしは貧しく、かつ乏しい。しかし主はわたしをかえりみられます』と詩篇記者はうたっている(詩篇 40:17)。

胸当の左右には特に輝いた2つの大きな宝石があった。これはウリムとトンミムと呼ばれていた。これによって神のみこころが大祭司を通して知らされた。決定すべき問題が主の前に持ち出されたとき、右の宝石の周囲に光輪がかかれば、これは神の是認もしくは認可のしるしとなり、左の宝石にかげりができれば、これは拒否もしくは認可されないしるしとなった。

大祭司の帽子は白亜麻のかぶりものであったが、それには『主に聖なるもの』としるした金の板が青ひもで結ばれていた。祭司の衣服と動作のすべては、それを見る者に、神の神聖なこと、その礼拝が清いものであること神の前に来る者には純潔が要求されることなどを、深く感銘させるものでなければならなかった」